

令和6年7月18日

地方独立行政法人山梨県立病院機構
理事長 小俣 政男

令和5年度の決算と今後の取り組み

令和5年度の決算が整いましたので、決算の状況及び今後の取り組みについてご報告いたします。

A) 決算の状況

令和5年度決算

令和5年度は、第3期中期計画期間の最終年度となります。計画と比較して、経常利益は8億4,200万円増の17億9,300万円、純利益は8億4,000万円増の17億5,900万円となりました。

また、第3期中期計画の4年間における純利益は77億9,200万円と、第2期中期計画5年間の純利益76億4,900万円を上回っており、順調な経営状態となっております。

B) 病院の現状と展望

① 救命救急医療体制の充実・強化

中央病院は、県内唯一の高度救命救急センターとして、病院外心肺停止、重症外傷、急性中毒等、より高度で専門的な救急医療を提供しております。

また、各消防本部からの要請により、24時間体制で3次救急患者を受け入れており、2次救急患者や他の病院等で受け入れることができなかった重症患者についても受け入れているところであり、救急車での搬送人数は、最も多い7,605人となりました。

なお、診断と治療を同時並行で行える手術台と心・血管X線撮影装置を組み合わせた手術室（HOR・Hybrid Operating Room）及びHEOR（Hybrid Emergency Operating Room）については、令和6年8月の稼働予定を見据え、手術室の拡張工事を実施しており、今後とも山梨県の基幹病院とし

て、セーフーネットの役割を果たして参ります。

② 総合周産期母子医療への取り組み

中央病院では、地域の分娩取扱機関との連携を図りながら、県内全てのハイリスクの妊婦等を受け入れ、専門的な医療を提供しております。

また、胎児超音波スクリーニング検査などにより、胎児に係る疾患の早期発見に努め、分娩までの継続的なサポートをとおして、母体・胎児への継続的な支援を行って参ります。

③ がん医療への取り組み

中央病院では、がんの可能性がある患者さんの血液などから遺伝子を検査し、最も効果的な化学療法を提供しております。

特に、令和5年3月には、がん遺伝子パネル検査の医学的解釈及び治療方針について、独自に決定することができる「がんゲノム医療拠点病院」に指定されたことから、パネル会議を13回開催し、148症例について検討を実施しました。

今後も、がんゲノム医療拠点病院として、本県におけるがん医療の質の向上に努めて参ります。

④ 先進医療への取り組み

中央病院では、従来の手術と比較して患者さんの身体への負担が少なく、入院期間も短縮されていることから、低侵襲手術支援ロボットによる手術を積極的に進めております。

令和5年11月からは、これまで利用していました低侵襲手術支援ロボット da Vinci Xi に加え、HUGO RAS システムを導入することにより、前年度比8.5%増の448件の手術を実施しました。

今後も独立行政法人制度の特性を活かし、高度で専門的な医療を提供して参ります。

⑤ 県立北病院における精神科救急、児童思春期精神科、重症通院患者への医療の充実

北病院では、平成27年度から本格的に県の精神科救急医療体制の24時間化に対応し、常時対応型病院として、救急患者を受け入れ、治療を行うとともに、平成31年4月に訪問看護ステーションを開設し、退

院後、地域で生活する重症通院患者さんに対して継続的に支援を行っており、期間中最も多い3,317人に対して訪問看護を実施しました。

今後も、地域の精神科救急、児童思春期精神科、重症通院患者、依存症患者等への医療の充実を図って参ります。

⑥ 地域に根差した医療従事者の育成

令和5年度（令和6年度から研修開始）の初期臨床研修マッチングの結果は、市中病院904病院中5位（25人）と全国トップクラスとなっており、救急医療及び各分野での最先端医療を支える人材教育を行っております。

令和6年度は、27人の初期臨床研修医を採用し、初期臨床研修医51人、専攻医58人 計104人の若手医師が在籍しています。これは、当院の全医師244人の42.6%となります。

これら若手医師の教育は、将来にわたって山梨県の医療の質的及び量的な基盤になると考え、当機構の医師の指導のもと、高度な知識と技術の習得を目指し、日々の研鑽を積んでおります。

また、令和4年度からは、中央病院において看護師の特定行為研修を開始しており、令和5年度では中央病院看護師3人が修了しております。

今後も、山梨県の地域医療を支えるため、多くの医療従事者を育成できる教育環境の整備を図って参ります。

⑦ より親切、信頼される病院を目指して

患者さんの会計待ち時間解消のため、外来会計窓口の直営化に伴い、令和5年度の会計平均待ち時間は、前年度と比べて0.5分減の7.7分と、期間中で最も短縮されました。

また、院内に設置された「患者さんの声」への適切な対応や電話予約センターへの通話率の向上を行うなど、患者サービスの向上に努めて参ります。

⑧ 退院後も見据えた患者支援

中央病院の患者支援センターにおいては、患者相談の受け付け、退院調整のための巡回相談を担当看護師と連携して行うなど、患者や家族に対して安心できるサポートの体制を整えております。

令和5年度の退院支援件数は、前年度並みの4,572人と高い水準

を維持しています。

また、退院後も患者が安心して在宅で療養できるよう地域の訪問看護ステーション等と連携した退院後訪問を実施いたしました。

⑨ 基幹災害拠点病院としての使命を果たすために

山梨県唯一の基幹災害拠点病院として、災害時の初動活動等を強化するため、令和5年10月、富士山の火山性地震を想定した、中部ブロックDMAT実働訓練を実施いたしました。

また、令和6年1月1日に発生した能登半島地震への災害派遣として、翌1月2日から順次、中央病院DMAT隊及び北病院DPAT隊を派遣いたしました。

⑩ 新型コロナウイルス感染症への取組

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）については、5類移行後においても、医師・看護師・コメディカル・事務が一丸となって感染対策に取り組むことにより、重点医療機関としての使命を堅持して参りました。

県立中央病院及び県立北病院は、県の基幹病院として、県民の健康の確保と増進に寄与することを目指して、先進医療を取り入れながら、職員一同“早くきれいに治す”を合言葉に、患者さんが一日も早く元気な姿でご家族の元にお帰りになれるよう、取り組んで参る所存です。

今後とも、御支援のほどお願い申し上げます。